

宮沢賢治記念館運営審議会会議録

1 開催日時

平成29年7月11日(火) 午前10時00分～午前11時42分

2 開催場所

宮沢賢治記念館 多目的ルーム

3 出席者

(1) 委員 7名

中島健次委員(会長)、高橋則子委員(副会長)、鈴木守委員、晴山ノリ委員、小原節子委員、堀合範子委員、多田章委員

(2) 事務局(宮沢賢治記念館) 3名

鎌田館長、鈴木副館長、宮澤上席主任

4 議題

(1) 平成28年度事業報告

(2) 平成29年度事業計画

(3) その他

・資料の保存と公開について

5 議事録

(1) 開会 鎌田館長

(2) あいさつ 市川生涯学習部長、中島会長

(3) 議事

①平成28年度事業報告について

鈴木副館長：資料説明

多田委員：融雪装置が設置されましたがどういう状況だったのでしょうか。

鎌田館長：すっかり解けているわけではなく、シャーベット状態になっています。雪を感知してから動き出すので、沢山降ってしまうと役に立たないこともありますので、道路課の方で朝見に来てくれているそうです。結局、木や草を刈っていただき斜面に日が当たるようになったこともあり、冬でもバスは上がるようになっています。

ただ、融雪装置の区間がもう少し長ければ良かったと感じております。

堀合委員：この事業報告を見ると、市の施設ですが休館日としている月曜日を開館したり、開館時間を延長したり、来る人、使う人、見る人側に立って柔軟に対応しているとびっくりしました。

鎌田館長：蘇民祭の日は蘇民祭をご覧になった方々が、当館にお寄りいただきますので、その関係もあり1月2日から開館しています。

メンテナンスなどは全て朝か夜、閉館後しかできない状況にありますので、できれば1か月に1回くらい休館日が欲しいというのが正直なところです。月曜日は他の施設が休館日のために、当館の入館者が増える状況にあります。

堀合委員：会議が始まる前に館内を見させていただきましたが、外国人の方がいらしていました。英語の字幕も追加されてすごく工夫をしていると思いました。

鎌田館長：国際交流室の協力を得て字幕を英語に訳し、普段はここでその導入映像を流しています。あとはスマホを持っている方は、QRコードが入っていますので、そちらで展示の説明をご覧になっていただいております。

中島会長：去年は120年ということで、雨ニモマケズの手帳の展示という非常にインパクトのある企画だったと思いますが、林風舎さんが所蔵されているということで、今後このようなお宝を記念館に展示するとういようなことが考えられた場合、宮澤さんもいらっしゃると思いますが、林風舎さんとはどのような取り扱いになるのでしょうか。

鎌田館長：去年は生誕120年ということもございまして、快く貸していただきました。会長さんがおっしゃるとおり、宮澤学芸員には非常に潤滑油になってもらっております。後で説明いたしますけれども、当館では今まで直筆原稿をほとんど公開してこなかったのですが、年度計画を立て修復しておりましたので、今後は特別展示室で公開できるようになります。それと林風舎さんがお持ちの資料と合わせて何かできればいいなという風には考えております。具体的にはまだないですが、そういう風に連携を図っていければいいなという風に考えております。

高橋委員：4月から6月の間にギャラリートークがあったようですが、宗教はどなたが担当したのでしょうか。

鎌田館長：牛崎が担当しました。

小原委員：宗教というと法華経という形になるのでしょうか。

宮澤上席主任：もともと、お家が浄土真宗でしたが、賢治が亡くなってから宮澤家は法華経、日蓮宗に改宗したわけですが、そういった流れのこととか、賢治が日蓮宗を信仰、そちらの方へ傾倒していったのかということを中心に、作品感を含め、牛崎がギャラリートークでお話をしたというものでございます。

小原委員：私はカトリックの洗礼を受けておまして、フランシスコの平和の祈りというのがあるのですが、それと宮沢賢治の雨ニモマケズの考え方が、すごく似かよっている部分があると思います。ほんとに偉い人が研ぎ澄ませた時に、同じようになるのでしょうか。

東和の賢治の会で、私がそれを対比させて話したことがあります。やはり人間に畏敬の念を宇宙とか何かに対して感じるということがあまりなくなっている現代で、地球の中で戦争がいつまでたってもあり、何でこんなにばかなのかしらといつも思います。そういう意味で、世界全体が幸福にならない限りは、人間の幸福がありえないという賢治の言葉は宗教を超えた信仰みたいな、本当にすごさを感じます。そんなところも研究していただきたいと思います。

②平成29年度事業計画について

鈴木副館長：資料説明

中島会長：やまなし展はみなさんもうご覧になりましたでしょうか。

鎌田館長：資料の方に図録を同封しておりました。小学校の修学旅行の方々がお出でになった時には、先生方に参考にしていただくため図録をお渡ししております。

堀合委員：とてもいい企画だと見る前から思っておりました。小学校6年生の教科書に載っておりますが、親御さんに連れられてこられるお子さんは限られると思いますので、学校でスクールバスを活用して来れば、小さいうちに賢治の世界にいっぱい触れていると思うんですけど、もっと他の面を知るきっかけになると思います。6年生は毎年違いますので、毎年が無理であれば隔年とかでもやっていただければと思います。

観光協会の「やまねこ号」ですが、賢治記念館や高村記念館とか回るコースがあり、年をとった人たちや足がない人も来やすく安い料金で市内を観光巡りできて、観光協会と組んでいい企画だなと思っています。ぜひいっぱい宣伝なさればいいと思います。

鎌田館長：午前中が「どんぐり号」、午後が「やまねこ号」、1日が「どんぐりとやまねこ号」です。昨年までの「あったかいなはん号」は、午後の部には当館が入っていませんでしたが、午後の部がいまいちだということで、必ず当館を入れていただくということになったようで、毎日のようにお出でになります。

堀合委員：「あったかいなはん号」を使って、冬にお年を召した人たちと一緒に早池峰神楽に行きました。

中島会長：入館者の声が届いていると思いますので、いろいろな改善点があると思うので、それには柔軟に対応していただきたいと思います。いわゆる展示公開だけでなく、牛崎君を中心に外向いて伝えていくよう頑張っていただきたい。

鎌田館長：ギャラリートークを開催するとみなさんにお寄りいただけます。その後は、展示室の方で解説をするという風にしております。なかなか展示の内容が難しいので、やはり解説してもらおうと解るといような感じがあるようです。

中島会長：事業PRはチラシを作成していると思いますが、市の広報は使っているのでしょうか。

鎌田館長：HPに掲載しています。

中島会長：というのは、よそからは熱心なお客さんは賢治記念館ということで来るんですが、以外と地元はなんか空気や水のように疎く、全国ファンから見れば、これほどもったいないことはないと思う時があるので。そういう意味で市の広報も使っていただいて地元に住んでいる利を生かすような形で取り組んでいただきたいと思います。

③その他

鎌田館長：皆さまご存知かと思いますが、収蔵庫に賢治の直筆原稿がずっと収蔵されております。今まで桐の箱に入った状態で保存されていたものですが、今回宮澤が参りまして、保存箱を中性紙の箱に変更して、大塚巧藝新社という京都の業者に依頼し、年度計画を立てまして、劣化の激しいものから修復をかけております。この修復をどういう風にやっていくか宮澤の方から説明させていただきます。

宮澤上席主任：資料説明

中島会長：原稿の修復は決して安価なものではないと思いますがいくらぐらいかかるのでしょうか。

宮澤上席主任：だいたい30年計画で、年間130万から140万円の計画でやっておりますので、130万円×30年そういう位です。

鎌田館長：だいたい随意契約130万円の範囲を超えない程度の予算を要求しています。京都には修復する業者さんがたくさんいらっしゃいますが、ずっと長い付き合いで大塚巧藝新社という所がありまして、東京に支店があり、そこへ当館で資料を持って行くと、大塚巧藝新社で京都の方へ持って行って修復し、終わると東京に持って来て、それを当館の学芸員が2人で受け取りに行くという作業をしています。

修復作業を始めるときには、修復業者さんに色々話をお聞きし、花巻市博物館の館長さんからもご意見を伺い、この業者さんであればということでございましたので、作業を進めたものです。

中島会長：それで30年かけること。

鎌田館長：ただ、一回にやっていただく作業の量もございます。紙そのものがものすごく重いので何回も行ったり来たりしなければなりません。

宮澤上席主任：先ほどのように、筆記具の問題とか、紙の状態の問題とかそれぞれ違いますので、やっぱり慎重にやっていかなければいけないという物も多いので、そういった所にも考慮しながらです。

中島会長：金さえかければ良いという訳じゃない。単年度に何億をつけるとかそういう問題ではないということですね。

宮澤上席主任：慎重に行っていないといけないものです。

中島会長：そういう意味で優先順位をつけてやるんですね。

鎌田館長：Aランクの方から順序にということで行っております。

中島会長：複製という方法がありますよね。今の技術であればほぼどんな分野でも、絵画でも、あるいは彫刻でも。やっぱり生原稿というのは、みんなの目に触れることができないし、そういう意味では複製作業の取り組みはどういう感じでしょうか。

鎌田館長：原稿のデータは全部あります。先ほど「アザリア」をご覧になっていただきましたが、今回修復が終わった実物を展示いたします。

今、「アザリア」の複製を作っている最中です。最終的には、皆さまに手に触れていただけるような物にできればいいなと思っています。

中島会長：30年後に朽ち果てても、複製という形でほぼ本物のような展示ができる。

鎌田館長：予算をかけて修復したので、翌年度にはそれを展示して皆さまにご覧いただきたいと考えております。

10日間位が限度だと思いますので。その後は、複製なり複写したデータなりを展示するという形になっています。今の方法もこういう形で修復はしましたが、30年後どうなっているかというのは、誰もわからないので、今最善の方法で修復しているという状況です。

中島会長：チェロの修復は楽器自体はそんな価値がないですね。ただ、これを弾くという

別の意味で、逆に楽器も酷使に耐えなくてはいけないというのがおそらくあるのではないのでしょうか。

宮澤上席主任：展示用というだけでなく楽器としての機能も持たせることをしなければいけないということで、大掛かりなオーバーホールを行いました。

楽器は1世紀に1回2回はバラバラにして修復するのが通例らしいです。1回こうした大掛かりなことをやっておいたほうが良いということでしたので、去年急いでやらせていただいたということでございます。

(4)その他

中島会長：1年に1回の顔合わせですので、それぞれの会の活動の紹介を簡単をお願いします。

鈴木委員：今年から毎月1回、賢治の広場で賢治カフェをやっております。隔月ですが会員の誰かが1時間ちょっと位で講義みたいなお話をしております。併せて、他のメンバーも入り賢治作品の朗読をしております。無料ですのでどうぞお越しになってください。

この委員を引き受けてから、リニューアル後、本館がどのような評価を受けているかあった人に聞いてみるのですが、非常に格調高くなったという声が多いです。あるいは、賢治を詳しく知っている人はいいだろうけど、初心者にはわかりにくいのではないかと、とっつきにくいのではないかとという評価が非常に多いです。そこで、今度、直筆原稿を公開に掛けたということなので、直筆原稿に合わせて、賢治の書簡がいくつかあるわけですし、賢治への来簡もあるはずですので、すぐには難しいでしょうが、いずれ遠からず公開して欲しいです。そうすると皆さんもっと興味関心を持つと思います。

直筆原稿と同じように、賢治の書簡の下書きがたくさんあるわけですが、生の下書きを見てみると、賢治の親しみやすさとか、初心者でもとっつきやすくひとつのきっかけになると思います。宮守ホールに澤里武治宛の書簡が16通くらいあります。宮守ホールはほとんど来館者がありませんので、それが「mm1」に移って当初公開されていたのですが、すぐに公開できなくなってしまいました。結局は、遠野博物館に保管されております。宮沢賢治の書簡というのは本館にはほとんどないはずですので借用して展示するとか、ちょうど今収蔵されている状態が非常に残念なので、そういう所も含めて、書簡について、今後どう扱うか、リニューアルされ、120周年がありました、データを見ると入館者が増えていないような気がしますので、ぜひ、初心者にとっつきやすいようなものを、展示、公開も考えていただければうれしいなと思っています。

高橋委員：大迫の早池峰賢治の会も10周年を迎えまして、いろいろな資料があまりにもありすぎて、どれがどれだかわからない感じで大変だなと思っています。今、会の集まりを持つ機会ができなくておりました。会費を集めてスタートしましたが、最初の5年くらいは会を年1回ないし2、3回研修会を兼ねてやりました。早池峰と賢治の展示館にみなさんに来ていただいていますから、ちゃんとやっていたかなければと思っています。特に今年は大迫開町400年というイベントが色々ありますが、早池峰と賢治の展示館を中心に何かをするという要望も

ないので、普段通りやっております。もったいないのもう少し宣伝の方法を考えたらと、今年は絵葉書を作ったくらいで終わっております。賢治記念館のほかに賢治だけを展示しているというのは大迫だけですので貴重なのかなと思っています。連携しながらと思いますなかなかそうはいきませんで、こっちはこっちという感じで色々考えているようでございます。

晴山委員：石鳥谷では8月6日にやまなし祭をやっていますが、いつものパターンであれば、子供たちがやまなしを朗読して、コーラスをやって終わりというような感じですか。今度7回目で、皆さんに何かこうやってもいいんじゃないという知恵をいただきたいなと思って参加しました。今日はみなさんよろしくお願ひします。

中島会長：毎年何人くらい集まりますか。

晴山委員：去年は70名でした。

中島会長：町中に賢治さん関連の施設がありますよね。酒蔵のあと。

晴山委員：あそこは今ちょっと休んでいます。

堀合委員：板垣さんという方と同じような活動をされていらっしゃるんですか。

晴山委員：そうです。葛丸祭は10月10日で去年は100人くらいの参加でした。

鎌田館長：あとは道の駅で賢治三日月祭がありますね。

晴山委員：みなさんどうぞいらしてください。

小原委員：旧花巻市と三つの町が一緒になって東和も花巻市になりました。東和だけが宮沢賢治の会がないというので、賢治の会を作りたい4人が集まって4年前にできました。年10回8月と9月はお休みで、毎週第2水曜日午後2時から4時まで東和図書館の視聴覚室で例会をやっております。去年は石鳥谷賢治の会の方に来ていただいて交流会を行いました。この6月に石鳥谷に15人位行きまして板垣さん中心に案内していただきました。去年は大迫に行き浅沼さんに案内していただきました。冬を除いて交流会というか、賢治が歩いた作品に載っているような所に出て活動することを結構しております。明日は鈴木さんに私どもにいらしていただくことになっています。あとは年1回「毘沙門」という会報を6月に刊行しています。ただ、平日の2時から4時は65過ぎの者しか集まれないですね。今、会長は体を壊されていますが、幹事のみなさんも具合が悪いかか病院通いとかで、若い人を入れていかなきゃいけないというのが今の課題です。

堀合委員：うちの会は賢治だけに焦点を当てた取り組みをしているわけではなく、根っこの精神が同じということで、宗教でもない政治団体でもない世界平和を願ひ教育とか科学とか文化の面から支援や活動をしていこうというボランティアの団体です。寺子屋運動を支援するため書き損じはがきの回収やバザーを開いたり、花巻では花巻ユネスコ賞を贈ったり、高等学校で国際理解講演会を開いています。ペセルクルというコーラスもやっております、ちょっと高齢化しておりますが若い人も入ってくれたりして活動しております。あとは、会員内部ですが、ティータイムというので読書会を年5回開いております。会員の中で十数名集まり2か月に1回くらい読書会をしておりますが、賢治作品はできるだけ読みたいということで、1、2作品に絞って読書会しております。

多田委員：私は賢治の会とかに入っていないので、地元に住む人間として感じていること

です。去年は本物の手帳の展示があり、私も来て見ましたがすばらしい企画だと思います。展示する期間というのは長くできないでしょうか。

鎌田館長：エアタイトケースで湿度とかを管理できるように展示しますが光があたることによって劣化が進んでいくので、やはり10日間位が限度かなと。休ませてまた繰り返し公開はしていくような形になっていくと思います。

多田委員：去年は120周年で入館者が増えるかと期待していたのですが、数字をみると意外に伸びておらず残念でした。

鎌田館長：去年は国体がありまして、国体のお客様はありましたが、国体の関係者で宿泊施設を全部抑えられ秋の行楽シーズンが伸びませんでした。あとは、やはり少子化の影響で、お出でになる団体数は同じですが子供さんの数がものすごく減っています。そういう風に分析しています。

多田委員：熊の出没についてですが、つい最近もブドリ舎の前に親子のクマが出たとか童話村に出たとか聞いていますが、先輩から聞くと、ここ100年位はクマの話はなかったということです。ところが最近そういう状況で、これからシーズンで入館者が増えてくると思いますが危害が出ないといいなと心配しています。熊の情報は結構あったのでしょうか。

鎌田館長：警察や農村林務課から連絡を頂戴するようにしていて、周辺施設は情報共有するようにしていますし、当館の階段の上り口は上がれないようにして通行禁止という作業はしています。南斜花壇の草刈りを私たちやボランティアの方々がやっていましたが、とてもそれでは間に合わなくなってしまい、今回初めて業者を入れて草刈りを行いました。賢治記念館線も道路課の職員に下草は刈っていただきなるべく危険がないように作業はしておりました。

多田委員：インターネットの時代で賢治記念館の情報もパソコンで見られますが、市の職員が出張に行くときはリーフレットとか持って行ってPRしているのでしょうか。

鎌田館長：花日和は持っていくように広報から言われていますがたしかにその通りですね。

中島会長：芸術文化協会の会長をしていますが、全国の演劇や音楽や様々なジャンルで賢治作品に取り組んでいる人が非常に多いと感じています。そして花巻でぜひやりたいというのが結構ありますが、いろいろな関係で大分お断りしています。会場の関係とか、一緒にやってほしいとか。感じたのは、やはり全国各地で宮沢賢治作品は取り組みやすいのかどうかわからないですけれども、非常に多いなあというのが実感です。花巻で演ずること自体が非常にあこがれというかメッカでやりたいというのが多いと思います。遠いほど憧れというかこの地でやりたいという思いが伝わってきます。我々は幸せな所にいるともう少し実感して日々頑張らないと思っています。

入館者は一喜一憂してもしょうがないと思います。気になるところではあります。安定的には来ていてみなさんの努力には感謝します。

小原委員：劇団の人たちを断る理由は何でしょうか。

中島会長：会場の関係や、一緒にやりたいという要望です。一緒にやるとなると私も自分が年間計画を立てて一生懸命やっている時に、なかなかうまくマッチングしないという部分があります。

全部断っているわけではないですが、要望には全部お応えできないなという感じですが。全国の方々も、そもそも知らない土地にやってきて、そこで公演とか上演をやるというのは、これまたなかなか大変、結局私たち自身が取り組むのと同じくらいのエネルギーがかかる部分があります。

大きい企画が来れば市が全面的にかかわってやれる部分があるのですが、そうでないものは残念ですができません。

鎌田館長：今、博物館では多田等観展をやっていますが、8月1日から雁の童子の直筆原稿を当館の方から貸し出して展示しますのでぜひ足をお運びください。

(5)閉会 鎌田館長